

研究の柱Ⅰ 授業づくり

本校では授業づくりで大切にしたいことを8つにしぼり意識統一を図った授業づくりを目指している。

事前アンケートによる
実態把握

児童の実態把握

課題意識の向上

板書の工夫

キーワードの提示

変容のわかる 対比的な構成

中心部分を浮きだたせる色使い

帯小の道徳
～スマイリング8による
意識統一～

- 1 ねらいはすっきり明確に
- 2 導入はさらっと外さず本時の世界へ
- 3 無理なく無駄なく基本発問
- 4 中心発問が命です
- 5 自己を見つめる「書くタイム」
- 6 自己との対話「自己を〔見つめる〕」
- 7 道徳ノートは宝物
- 8 板書でトーク

書くタイム

全学年道徳ノートの活用

まとめ 日にちとタイトル

自己評価

中心発問や
補助発問に
対する考え

「私たちの道徳」に直接書き込む活用の例。
※国語の読書単元と合わせるなど様々な活用
方法があります。

問題解決的な学習を生かした道徳授業

① 多面的、多角的に考える。

道徳的諸価値についての理解を基に、

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える。

② 対立する価値観を比較検討する。

複数の内容項目（道徳的価値）を扱うことも可能

③ 道徳の行為や習慣への指導。

子どもたちが問題を主体的、協働的、能動的に
思考し、判断し、表現し、話し合う学習

帯広小学校における

「多面的多角的に考える」の捉え方

例) 多面的に考えるとは

「親切はいいこと」という理解だけではなく、一方では、難しいものであるという方向から考える事。親切については、様々な感じ方、考え方があるという方向から考える事。

例) 多角的に考えるとは

1つの道徳的価値について学習するときに、様々な関連する価値と関連付けて考える事。親切をする時は勇気が必要であったり、感謝が必要であったりする事を教師が意図的に関連付ける指導を行う事は、親切について多角的に考えさせる事。

自分と違う意見や立場を理解しようとしたり、その時の心情を様々な視点から捉えたりすることで、多様な考えにつながる。

研究の柱Ⅱ つきたい力の検証

定期的に児童アンケートをとりながら、以下の視点にそって検証していく。

視点① 児童は道徳の時間において、友達の考えを聞きながら、自分の考えを発表することができる。

視点② 児童は友達の意見をもちに、自分の考えが交流前よりも深まっていると感じている。

視点③ 児童は友達を信頼し、自分も友達から信頼されていると感じている。